

表 7 学生診療室の状況

国立 私立	大学名	学生 診療室 の有無	面積 (m ²)	ユニット (台数)	ユニット 1台当たり の学生数 (名)	臨床実習 期間(月)	専任教授 の有無 (名)	専任補助 教員の 有無(名)	1. 個別指導 2. グループ指導 3. 分野別指導	配当方法 1. 一般患者 2. 紹介患者 3. その他	2010年度 学生1人当た りの平均診療 患者数(名)
国立	ソウル大学	○	814	44	2.0	12	30	4	3	1	165
国立	慶北大学	○	204	29	2.0	12	25	2	1	3	43
国立	全北大学	○	310	6	6.7	12	9	1	1	3	11
国立	全南大学	○	759	49	2.0	8	2	2	1	2	30
国立	釜山大学	○	404	20	8.0	12	1	1	3	1	28
国立	江陵原州大学	○	198	10	4.0	12	0	2	3	3	50
私立	慶熙大学	○	324	24	3.3	-	0	2	3	2	86
私立	延世大学	○	2,531	48	1.4	12	11	54	1	3	167
私立	朝鮮大学	○	363	30	2.7	16	30	1	3	2	53
私立	檀國大学	○	60	13	5.0	6	2	2	1	2	12
私立	圓光大学	○	72	7	12.0	12	9	1	1	2	18

おり、教育白書の情報でみるかぎり、現在のところ一定の基準はないように思われる。

(3) 学生診療室の状況

学生が患者を対象として臨床実習を行う学生診療室はどの大学にも設置されている。しかし、そのユニット台数は6~49台と大きく異なり、ユニット1台当たりの学生数も1.4~12名と差が認められる(表7)。

臨床実習(病院)期間も6~16カ月と幅があり、2010年度の学生1人当たりの平均診療患者数は、11~167名と10倍以上の差が認められた。臨床教育は学生に対する個別指導や分野別の指導で行い、患者の配当方法は一般患者を配当する場合と紹介患者を配当する場合がある。また、同じ大学の他学部の学生の健康診断の結果、治療が必要と認められた場合には、その学生の歯科治療を歯科学生が行っている大学もあった。

3) 学 生

(1) 歯学専門課程の学生数

6年制と4年制の歯科大学が混在するため、共通である歯学専門課程の1~4学年の学生数のみを表8に示す。各大学の学生定員は1学年約40~90名であり、11大学の定員総数は1学年約750名である。女子学生の割合は約1/3である。

(2) 歯科医師国家試験の合格率

韓国における歯科医師免許は、歯科大学を卒業後に歯科医師国家試験を受験して取得する。

2007~2010年の各大学の合格率を表9に示す。どの大学も約90~100%の合格率であり、国立大学と私立大学で違いはほとんど認められない。2010年では、国立大学

(6校)では390名中379名が合格して、合格率は97.2%、私立大学(5校)では401名中388名が合格して、合格率は96.8%であり、全体では97.0%の合格率であった。

(3) 卒業生の進路

2010年の卒業生の進路を表10に示す。多くはインターンや勤務医となっている。韓国では、男性には兵役の義務があるが、男性は軍に入隊し、兵役の代わりに地方の保健所勤務の公衆衛生歯科医師として働く者がいる。

4) 教 員

(1) 歯科大学の教員数

韓国の大学における教員制度は、日本とは異なっている。専任教員は教授、副教授、助教授、講師からなり、同じ講座(教室・分野)に教授が複数名いる場合もある。教室運営は主任教授が中心になって行っている。

歯科大学の専任教員数は大学によって大きく異なり、最も多いのがソウル大学の103名、最も少ないのが檀國大学の36名である(表11)。教育白書には専任教員名簿も掲載されており、女性教員について調べてみると、全体の17.8%を占めていることがわかった。職位別にみると教授では10.2%、副教授では22.3%、助教授では26.2%、講師では38.9%で、職位が上がるほど女性教員の比率が低くなる傾向にある。

表12に基礎系分野の、表13に臨床系分野の各大学の教授数(教授、副教授、助教授を含む)を専攻分野別に示す。歯科大学の平均教授数は、基礎系分野が17.7名、臨床系分野が33.6名である。

(2) 教員の研究実績

表 8 歯学専門課程の学生数 (2010年1学期の登録者数)

国立 私立	大学名	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		総計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
国立	ソウル大学	66	26	59	31	59	36	61	24	245	117	362
国立	慶北大学	42	18	34	22	29	17	17	34	122	91	213
国立	全北大学	23	16	26	12	20	20	18	21	87	69	156
国立	全南大学	44	26	44	30	43	27	34	24	165	107	272
国立	釜山大学	47	33	50	30	41	39	40	40	178	142	320
国立	江陵原州大学	32	7	35	8	25	8	38	6	130	29	159
私立	慶熙大学	54	24	50	32	61	25	48	33	213	114	327
私立	延世大学	29	14	29	12	41	24	45	20	144	70	214
私立	朝鮮大学	52	30	40	34	0	0	0	0	92	64	156
私立	檀國大学	63	11	55	21	58	12	57	8	233	52	285
私立	圓光大学	72	18	53	30	76	23	57	14	258	85	343
	小計	524	223	475	262	453	231	415	224	1,867	940	2,807
	合計	747		737		684		639		2,807		(名)

表 9 歯科医師国家試験の合格率

国立 私立	大学名	2007年	2008年	2009年	2010年			国立・私立別 合格率
		合格率 (%)	合格率 (%)	合格率 (%)	合格率 (%)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	
国立	ソウル大学	90.9	93.8	93.2	97.8	89	87	97.2% (379/390)
国立	慶北大学	100	100	100	95.1	61	58	
国立	全北大学	96.3	97.7	100	100	38	38	
国立	全南大学	93.5	93.4	88.6	97.5	80	78	
国立	釜山大学	95.0	99.0	98.5	100	81	81	
国立	江陵原州大学	88.9	92.7	90.7	90.2	41	37	96.8% (388/401)
私立	慶熙大学	95	97	100	100	72	72	
私立	延世大学	100	98.7	98.6	97.0	65	63	
私立	朝鮮大学	97.6	96.7	96.9	95.1	82	78	
私立	檀國大学	89.9	89.0	93.9	96.6	89	86	
私立	圓光大学	90.2	93.3	94.6	95.7	93	89	
					97.0	791	767	

専任教員1人当たりの国内・国際学術雑誌への発表論文数(表14)や、獲得研究費の金額も掲載されている。

5) 施設・設備

歯科大学が専用あるいは共用で使用できる部屋数と総面積(病院施設は除外)をみると、ソウル大学が部屋数、総面積ともに最大であった。歯学専門図書館はすべてが有しているが、歯科大学内にあるのは8校、その他にあるのは3校であった。実験動物飼育施設に関しては、慶

熙大学を除くすべてがあると回答し、そのうち釜山大学と朝鮮大学を除く8校が歯科大学内にあると回答している(表15)。

6) 財政

表16に示すように、韓国では国立大学の授業料は同額ではなく、大学によって高低が認められる。韓国の歯科大学の年間授業料の国立大学と私立大学との差は、日本ほど大きくない。国立大学、私立大学内でそれぞれ比

表 10 卒業生の進路 (2010 年)

国立 私立	大学名	インターン	基礎系分野	軍入隊	開業	勤務医	未就職	その他	合計
国立	ソウル大学	39		9		26	12	2	88
国立	慶北大学	24		1		33	3		61
国立	全北大学	26				12			38
国立	全南大学						28	44	72
国立	釜山大学	65		1			3	1	70
国立	江陵原州大学	12		11		2	2	11	38
私立	慶熙大学	16		1	8			46	71
私立	延世大学	46		6		12			64
私立	朝鮮大学	23				34		37	94
私立	檀國大学	24		38		18	4		84
私立	圓光大学					80	7	1	88
	合計	275		67	8	217	59	142	768

(名)

表 11 歯科大学の教員数 (2010 年 12 月 31 日現在)

国立 私立	大学名	専任教員					BK* 契約教授	助教	非常勤教員		
		教授	副教授	助教授	講師	計			外来教授	時間講師	計
国立	ソウル大学	42 (4)	45 (8)	16 (1)		103 (13)			266		266
国立	慶北大学	22 (2)	12 (1)	6 (3)	5 (1)	45 (7)	1	9	98	95	193
国立	全北大学	21 (4)	12 (4)	5 (2)	2	40 (10)		7			
国立	全南大学	21 (4)	16 (4)	6 (3)	2 (1)	45 (12)	4	7	74	48	122
国立	釜山大学	21 (5)	16 (7)	3 (1)	1 (1)	41 (14)		7			
国立	江陵原州大学	19 (3)	13 (3)	6	3 (1)	41 (7)		6	29	2	31
私立	慶熙大学	26 (1)	7	14 (2)	5 (3)	52 (6)					
私立	延世大学	47 (2)	16 (1)	9 (2)		72 (5)				562	562
私立	朝鮮大学	17	11 (2)	12 (3)		40 (5)		17	14	10	24
私立	檀國大学	16 (1)	14 (4)	6 (1)		36 (6)		6	3	6	9
私立	圓光大学	14 (1)	13 (5)	24 (10)		51 (16)			136	4	140
	合計 (女性教員数) 女性教員比率 (%)	266 (27) 10.2	175 (39) 22.3	107 (28) 26.2	18 (7) 38.9	566 (101) 17.8	* : Brain Korea. 単位 : 名, () 内は女性の数.				

表 12 大学別の基礎系分野の教授数（教授，副教授，助教授を含む，2011年2月現在）

国立 私立	大学名	口腔 微生物学	口腔 病理学	口腔 生化学	口腔 生理学	口腔 解剖学	口腔 薬理学	予防 歯科学	歯科生体 材料学	口腔組織 発生学	歯科経営 情報学	生物 学	教育 学	小計
国立	ソウル大学	4	3	5	5	3	4	5	4	5	2			40
国立	慶北大学	2	2	2	2	2	2	2	2					16
国立	全北大学	1	2	2	2	3	2	2	2					16
国立	全南大学	2	2	2	2	3	2	2	2				2	19
国立	釜山大学	2	2	1	1	3	2	2	3					16
国立	江陵原州大学	1	2	2	3	1	2	3	2					16
私立	慶熙大学	5	1	1	1	2	2	1	1					14
私立	延世大学	2	2	2	2	2	2	2	2	2				18
私立	朝鮮大学	1	2	2	1	1	2	2	3	1		2		17
私立	檀國大学	2	1	1	2	0	1	2	1	1				11
私立	圓光大学	3	1	1	1	1	1	2	2					12
	平均	2.3	1.8	1.9	2.0	1.9	2.0	2.3	2.2					17.7

(名)

表 13 大学別の臨床系分野の教授数（教授，副教授，助教授を含む，2011年2月現在）

国立 私立	大学名	口腔 内科学	口腔顎顔面 外科学	歯科 補綴学	歯科 保存学	歯科 矯正学	歯周 科学	小児 歯科学	口腔顎顔面 放射線学	歯科 麻酔学	総合 診療科	小計
国立	ソウル大学	5	8	11	9	6	7	7	5	2		60
国立	慶北大学	3	5	4	3	4	3	3	3	1		29
国立	全北大学	2	4	4	2	4	2	3	2	1		24
国立	全南大学	2	4	5	3	3	3	3	2	1		26
国立	釜山大学	3	5	3	3	3	3	2	3	1		26
国立	江陵原州大学	3	3	3	3	3	3	3	3	1		25
私立	慶熙大学	2	8	7	4	4	5	4	3	0		37
私立	延世大学	3	12	8	8	8	7	5	1	1	1	54
私立	朝鮮大学	3	4	4	3	2	3	2	2	0		23
私立	檀國大学	2	4	4	2	4	3	2	3	1		25
私立	圓光大学	3	7	9	3	6	5	4	2	1		40
	平均	2.8	5.8	5.6	3.9	4.3	4.0	3.5	2.6	0.9		33.5

(名)

較すると4年制の専門大学院課程のほうが、6年制学部課程より授業料は高い傾向にある。年間授業料が最も安いのは国立大学の江陵原州大学（6年制）で、年間8,400,000ウォン（約64万円）であり、最も高いのは私立大学の朝鮮大学（4年制）の20,290,000ウォン（約154万円）である。

考 察

韓国では1988年度に「歯科大学の教育現況」と題する

教育白書が、韓国歯科大学長協議会によって初めて発刊された。その後、2000年度の第5集（1998～1999年）から現在までは、韓国歯医学教育協議会が中心となって教育白書を発行している。本研究で使用した第9集は2005年の第8集以降、6年ぶりの教育白書で、2007～2010年分の資料をまとめたものである。このように発行間隔が開いてしまった理由の1つは、それまですべてが6年制であった韓国の大学のなかで、学士を入学させる4年制の教育を行う大学ができたことで、4年制と6年制の課程が混在するようになったためである。

韓国では、人口 10 万人に対する歯科医師数は 56.3 人である。都市部と農村部での地域格差があるとはいえ、平均的にみれば日本の 79.3 人と比較して歯科医師数は少ない。歯科学学生定員は 1 学年約 750 名であり、日本の 1/3 以下である。韓国の歯科医師国家試験の合格率は、合格基準に 60% 以上絶対基準を用いており、領域別相対基準と必修問題 80% 以上絶対基準を採用している現在の日本と比べ、どの大学も非常に高い。

臨床実習では学生は実際に患者治療を行っているが、1 人当たりの治療患者数は 11~167 名と、大学によって 10 倍以上の大きな差が認められた。また、教育時間数に

も大学間の差が大きく認められ、講義や実習などの換算率が大学により異なるためではないかと推察されたが、詳細についてはさらなる調査が必要である。

このような教育白書を作成することで、各大学の歯学教育の実態が明らかになり、自校の教育改善の資料にすることができる。大学間で教育に関する情報を共有することの大切さが認識できると思う。

韓国では歯科大学の授業料などの費用は、国立大学と私立大学との間に日本(約 10 倍)ほどの差は認められない³⁾。

韓国の歯学教育白書は韓国歯科大学長協議会の下部組織である韓国歯医学教育協議会が中心になってまとめている。主に卒前教育に関する調査結果で、卒後教育に関する報告は掲載されていない。また、大学別に調査結果をまとめた部分が主になっているので、大学間の比較は行いにくい。

わが国では、日本歯科医学教育学会の歯科医学教育白書作成委員会が編集した『歯科医学教育白書』がある。これまで 2005 年版(2003~2005 年)、2008 年版(2006~2008 年)が発行されており、2011 年版発行に向けての作業が進められている。

わが国の 2008 年版の教育白書の内容は、大学歯学部・歯科大学および大学病院の現況と課題、歯科医学教育の現況と課題、特色ある歯科医学教育、歯科医学・歯科医療教育行政、学会および関連団体の活動などである。韓国の教育白書と比較すると、大学別のデータとしてまとめたものではなく、調査項目ごとに 29 歯科大学の比較を行い、分析・評価のコメントが書かれている。また、

表 14 専任教員 1 人当たりの発表論文数 (2010 年)

国立 私立	大学名	国内雑誌		SCI/SCOPUS 学術雑誌
		国内雑誌	国外雑誌	
国立	ソウル大学	0.6	0.9	0.8
国立	慶北大学	0.4	0.6	0.5
国立	全北大学	0.4	0.4	0.4
国立	全南大学	0.5	0.3	0.3
国立	釜山大学	0.7	0.5	0.4
国立	江陵原州大学	0.6	0.3	0.3
私立	慶熙大学	0.7	0.6	0.6
私立	延世大学	0.4	0.8	0.7
私立	朝鮮大学	0.9	0.3	0.2
私立	檀國大学	0.7	0.1	0.1
私立	圓光大学	0.4	0.2	0.2

表 15 歯科大学が使用できる施設・設備について

国立 私立	大学名	歯科大学が専用あるいは共用で 使用できるスペース (病院施設は除外)		歯学専門図書館の有無 1. 歯科大学内 2. 大学本部内 3. その他		実験動物飼育施設の有無 1. 歯科大学内 2. 大学本部内 3. その他	
		室数	面積 (m ²)				
国立	ソウル大学	272	21,125.0	○	1	○	1
国立	慶北大学	80	5,138.7	○	1	○	1,3
国立	全北大学	123	6,530.83	○	1	○	1
国立	全南大学	165	10,434.41	○	1	○	1
国立	釜山大学	133	8,180.5	○	3	○	3
国立	江陵原州大学	165	10,069.63	○	1	○	1
私立	慶熙大学	119	5,021.6	○	3	×	-
私立	延世大学	129	12,729.72	○	3	○	1,3
私立	朝鮮大学	145	6,934.5	○	1	○	2
私立	檀國大学	175	5,766.2	○	1	○	1
私立	圓光大学	95	5,562.71	○	1	○	1

表 16 韓国の歯科大学の授業料

国立 私立	大学名	教育 年限	対象	2010年 1学期	2010年 2学期	合計 (千ウォン)	合計* (万円)
国立	ソウル大学	4年制	1年生	8,779	8,610	17,389	132
国立	慶北大学	4年制	1年生	6,184	6,184	12,368	94
国立	全北大学	4年制	1年生	6,388	6,210	12,598	96
国立	全南大学	4年制	1年生	5,984	5,806	11,790	90
国立	釜山大学	4年制	1年生	6,294	6,113	12,407	94
国立	江陵原州大学	6年制	3年生	4,200	4,200	8,400	64
私立	慶熙大学	4年制	1年生	9,796	9,796	19,592	149
私立	延世大学	4/6年制	3年生	6,257	6,257	12,514	95
私立	朝鮮大学	4年制	1年生	10,585	9,705	20,290	154
私立	檀國大学	6年制	3年生	5,232	5,232	10,464	80
私立	圓光大学	6年制	3年生	5,129.5	5,129.5	10,259	78

*：千ウォン=76円として計算。

卒前教育だけでなく、大学院教育や臨床研修、特色ある教育、さらに国際交流、留学生教育や学会活動についての記述もある。

白書の調査項目や表記方法には日韓で差はあるものの、こうした白書を毎回交換するなど、韓国の教育関連団体と積極的に情報交換を行うことは、日韓両国の歯学教育の改善や教育の国際連携の推進に有益であり、そのことが歯科医師の質の向上につながり、ひいては両国民の口腔保健の向上に寄与すると考えられた。

結 論

韓国の歯科大学の状況について、現地調査と教育白書を基にした分析調査を行った。歯科大学は11校（国立：6校、私立：5校）あり、6年制の大学が3校、4年制の大学が7校、両者併設が1校であった。学生定員は1学年約750名であり、女子学生の割合は約1/3である。大学卒業後に受ける国家試験の合格率は97%（2010年）と高い。患者を対象とする臨床実習はすべての大学で行っているが、実習時間、患者数には大学による差がみられた。韓国では卒後の臨床研修制度はない。

歯科医療の国際化に対応するために、隣国の韓国と歯学教育に関する情報交換を行うことは、今後、日韓両国の歯学教育の改善や教育の国際連携の推進に有益であり、そのことが歯科医師の質の向上につながり、ひいては両国民の口腔保健の向上に寄与すると考えられた。

平成24年1月27～31日まで、著者らの視察を受け入れ、情報提供をくださったことに対し、以下の皆様に感謝い

たします。また、教育白書『歯科大学・歯医学専門大学院の教育現況 第9集（2007～2010年度）』の提供について、Prof. Choi Jae-Kap, 韓国歯科大学長協議会、韓国歯医学教育協議会に深謝いたします。

ソウル大学歯学部：Prof. Choi Soon-Chul（歯学部長）、Prof. Paik Dai-Il, Assoc. Prof. Jin Bo-Hyoung（教育担当）、Assoc. Prof. Ihm Jung-Joon（教育担当）。

慶北大学歯学部：Prof. Song Keun-Bae（歯学部長）、Prof. Choi Jae-Kap（教育担当）。

檀國大学歯学部：Prof. Shin Seung-Chul。

本研究は、平成23年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「地域やライフステージを考慮した歯および口腔の健康づくりの支援体制の構築に関する研究」）により行われた。

文 献

- 1) Choi Jae-Kap, 編. 歯科大学・歯医学専門大学院の教育現況 第9集（2007～2010年度）. 大邱（韓国）：韓国歯医学教育協議会；2011.
- 2) 川口陽子, 編. 平成23年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「地域やライフステージを考慮した歯および口腔の健康づくりの支援体制の構築に関する研究」平成23年度・総括・分担研究報告書. 2012. 99-100頁.
- 3) 日本歯科医学教育学会 白書作成委員会編集. 歯科医学教育白書 2008年版（2006～2008年）. 1版. 東京：日本歯科医学教育学会；2009. 2-9頁.

著者への連絡先：森尾郁子

〒113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 歯学教育開発
学分野

電話, FAX : 03-5803-4558

E-mail : imorio.edev@tmd.ac.jp

Dental Education in the Republic of Korea —White Paper on its 11 Dental Schools—

MORIO Ikuko¹⁾, TSURUTA Jun¹⁾, TAKEHARA Sachiko²⁾ and KAWAGUCHI Yoko²⁾

¹⁾Dental Education Development, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University

²⁾Oral Health Promotion, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University

Abstract The current situation of dental education in the Republic of Korea was investigated based on site visits and a White Paper. The contents of the White Paper on Korean Dental Education, Vol. 9 (2007-2010) issued in December 2011 were translated from Korean to Japanese. In the Republic of Korea, there are 11 dental schools : 6 national and 5 private schools. Three schools offer a 6-year undergraduate course ; seven schools offer a 4-year graduate course for college graduates ; and one offers both courses. There is no compulsory post-graduate clinical training program for dentists. Annual student intake stands at around 750, one third of which are female students.

The average curriculum for a 4-year course consists of 1,680 hours of lectures, 560.9 hours of basic science practice, 654 hours of clinical practice in practice rooms, and 1,491 hours of clinical practice at a hospital. All 11 dental schools have a student clinic, while the length of clinical practice at hospital and the number of patients per student differ widely.

The White Paper covered not only student education but also the organization of universities, research productivity and research funds of faculty.

To address the globalization of dental education, the exchange of information with other countries, especially with Asian neighbors like the Republic of Korea, is considered to be crucial for improving the quality and standard of dental education in this region.

Key words white paper on dental education, graduate course, globalization, educational standard, Republic of Korea

|||||
研究報告
|||||

英国における歯学部進学希望者を対象とした情報提供に関する調査

竹原祥子 森尾郁子 川口陽子

日本歯科医学教育学会雑誌 第29巻 第1号 (平成25年) 別刷

The Journal of Japanese Dental Education Association

英国における歯学部進学希望者を対象とした情報提供に関する調査

竹原祥子¹⁾ 森尾郁子²⁾ 川口陽子¹⁾

抄録 英国においては、歯学教育の基本方針と達成目標について General Dental Council (GDC) が大枠を定めており、そのなかで最も重要なものが、態度や人格を含めた臨床適性 (fitness to practice) である。大学側にとって、この要件を満たすためには、学業が優秀であるだけでなく将来の医療人として人格的に優れた志願者を集めることが重要である。このような背景から、英国の歯学部では積極的に進学希望者に情報を提供している。歯学部受験生の数が減少しているわが国においても、優秀な学生を確保していくために英国での取り組みは参考になる。本研究では、英国における大学情報提供のあり方について調査と検討を行った。

英国では歯学部進学希望者向けに全歯学部が協力して、歯学教育の内容、具体的な学生生活、将来の仕事の展開などについて記載した書籍 (キャリアガイドブック) を出版していた。また、大学に関する情報を第三者機関である Unistats を介して発信し、情報の透明性と公平性を図っていた。さらに最終学年の学生を対象とした全国学生満足度調査の結果を学生による大学評価として公表していた。

英国において歯学部志願者は多く、人気のある学部の一つである。大半の学生は第1志望で歯学部に入學しており、途中で辞めていく学生は少ない。大学が優秀な学生をリクルートしたいと希望するのは、英国も日本も同じである。Unistats やキャリアガイドブックなどによる情報提供のあり方を参照することは日本にとって有益であると考えられた。

キーワード 英国歯学部、大学情報ウェブサイト Unistats、全国学生満足度調査、キャリアガイドブック

緒言

近年、わが国において 18 歳人口は減少しており、優秀な学生をリクルートするために、大学は受験生や父兄を対象としたオープンキャンパスや入試説明会などを行って、積極的に教育の特徴、卒業後の学生の進路、研究活動などの情報発信を行っている。歯科大学 (歯学部) においても受験者の数は減少傾向にあり、1 回の入学試験では定員に満たない大学もある。歯科界の将来の発展のためには、優秀な学生に入學してもらい、大学が責任をもって歯学教育を行い、国民の健康に貢献できる歯科医師を養成していくことが重要である。

英国では、2011 年 6 月に『高等教育白書』¹⁾ が政府から発表された。この白書には高等教育のあり方を見直すためにいくつかの改善すべき点が挙げられている。その一つが大学の情報公開のあり方である。白書のなかでは、

大学に関する情報は当該大学ではなく、第三者機関である Unistats を介して情報発信し、情報の透明性と公平性を図ることを推奨している。また、英国では、全大学の学生を対象にした大学の教育内容や設備などの満足度を毎年評価し、大学の評価として公開すると同時に、大学側へフィードバックを行っている。

英国においては、歯学教育の基本方針と達成目標の大枠は General Dental Council (GDC) が定めており、患者保護の観点から歯科教育の質の維持に努めている。大学側はその基本方針の範囲で、大学独自のカリキュラムを組むことが許され、その教育内容は定期的に GDC により評価を受けている。GDC が設定した達成目標のなかで最も重要なものが、学業でなく態度や人格を含めた臨床適性 (fitness to practice) である²⁾。臨床適性の要件を満たすためには学業が優秀だけでなく、医療人として人格的に優れた志願者を集めることが重要である。このような背景から、英国内のすべての歯学部が協力して、「将来歯科医師になりたい」と希望する者を対象とした書籍 (キャリアガイドブック) を発行している。この書籍は個々の大学における歯学部紹介に加えて、歯科についての紹介、国民の口腔保健状況を踏まえた将来の歯科について、卒業後の研修医生活および歯科医師の生活、歯科

¹⁾ 東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科 健康推進歯学分野

²⁾ 東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科 歯学教育開発学分野

平成 24 年 12 月 15 日受付

平成 25 年 1 月 21 日受理

表 1 提供する歯学部コースと定員

大学歯学部	4年制 (医学部修了者対象)	4年制 (理系学部修了者対象)	5年制* (高校修了者対象)	6年制	定員合計
アバディーン大学		80			80
ロンドン大学クイーン・メアリー校		20	60		80
クイーンズ大学ベルファスト			45		45
バーミンガム大学			75		75
ブリストル大学			79 (4)	5	84
カーディフ大学			80	4	84
セントラルランカシャー大学		32			32
ダンディー大学			66 (3)	少数	66
グラスゴー大学			90 (3)		90
キングズカレッジ	8	30	128 (8)		166
リーズ大学			85 (4)		85
リバプール大学		15	66 (6)		81
マンチェスター大学			75	6	81
ニューキャッスル大学			79 (5)		79
シェフィールド大学			79 (4)		79
プリモス大学ペニンシュラ医科歯科校			66 (2)		66

* () 内は留学生の内数を示す。

(人)

医師になってからの選択肢などを紹介している。現在、歯学部受験生の数が減少しているわが国においても、今後、優秀な学生を確保していくために英国での取り組みは参考になると考えられる。本研究では英国における歯学部進学希望者を対象とした情報提供のあり方について調査を行い、日本の状況と比較検討を行った。

対象および方法

2011年12月に著者らは英国キングズカレッジ歯学部を訪問し、高校生対象の歯学部進学のためのキャリアガイドブック『CU@DENTAL SKL—A Guide to UK Dental Schools and Dentistry as a Career』³⁾を入手し、歯学教育関係者から教育に関する情報を収集した。また、インターネットを介して、Unistatsの提供する大学公式情報、全国学生満足度調査(National Student Survey)の調査方法や最新の結果などについての情報を収集した。

結 果

1. 歯学部に関するキャリアガイドブック『CU@DENTAL SKL—A Guide to UK Dental Schools and Dentistry as a Career』

英国において歯科医師になるための歯学部に入學するのは成績優秀であることが必要で競争率も高い。歯学部の募集条件は16校それぞれ異なっており、成績優秀で

あるだけでなく、職業経験などの多様な経歴をもった学生を集めるためのコースを設置している歯学部もある。多様化する歯学部コースのなかで、進学を考えている高校生に歯学部について知ってもらうために、歯学部のみ情報を集約して提供する書籍が『CU@DENTAL SKL—A Guide to UK Dental Schools and Dentistry as a Career』である。英国内の16大学歯学部の関係者が協力して執筆したこのガイドブックは23.95ポンド(約3,100円)で市販されている。「将来歯科医師になりたい」と希望する者を対象として書かれた本で、新設校であるプリモス大学ペニンシュラ医科歯科校とセントラルランカシャー大学歯学部を含む全16歯学部の情報を提供している。

当ガイドブックは1章「なぜ歯学部を選択するのか」、2章「21世紀の歯科について」、3章「歯学部学生の学生生活」、4章「歯科医師としての生活」、5章「歯科医師としての選択肢」、6章「どの大学の歯学部を選ぶか」、7章「歯学部への出願」、8章「英国の大学歯学部の紹介」という内容で構成されている。高校生が成績だけで進路選択する傾向になること、将来の職業をイメージしにくいことを考慮して、歯学教育の内容、具体的な学生生活、将来の仕事の展開が具体的に記載されている。すなわち、歯学部学生の学生生活に関するコメントや助言、さまざまな分野で活躍する先輩歯科医師の学生時代の思い出や現在の仕事内容の紹介など、歯科に興味をもたせるような内容となっている。

表1に提供する歯学部コースと定員をまとめた。英国

の大学歯学部の標準的な歯科医師養成コースは5年間で、高校を卒業した学生を対象としている。一般的な5年間の歯科医師養成コースに加えて、4年間あるいは6年間のコースも提供されている。

4年間の歯科医師養成コースには生化学系の理系学部修了者を対象にしたものと医学部修了者を対象にしたものの2種類がある。理系学部修了者を受け入れるコースは5つの大学（アバディーン大学、ロンドン大学クイーン・メアリー校、セントラルランカシャー大学、キングズカレッジ、リバプール大学）が提供している。そのうち、アバディーン大学とセントラルランカシャー大学には標準的な5年間の歯科医師養成コースはなく、理系学部修了者を対象にした4年間の歯科医師養成コースだけがある。理系学部修了者を対象にしたコースへの応募資格は生物や化学などの理系分野の学位を保有し、成績上位であることである。医学部修了者を対象とした4年コースはキングズカレッジだけが唯一提供し、定員は8名である。このコースは歯科医師と医師の2つの資格をもった顎顔面口腔外科および口腔病理分野の専門家を養成することを目的としている。また、6年間の歯科医師養成コースは、高等学校で化学、生化学、物理の科目を選択していなかったため5年間の歯科医師養成コースへの応募資格がない学生のために設置されている。4つの歯学部が提供しており、初年度の1年間は基礎的な科目を履修する。

このように歯科医師養成コースの修了年数は4~6年間で異なるが、いずれを修了してもBachelor of Dental Surgery (BDSあるいはBChD)を取得することができる。BChDはリーズ大学歯学部のみが2011年まで授与していた資格で、それ以外の大学はBDSを授与している。2012年度以降、リーズ大学はBChDではなくMChD (Master degree in Dental Surgery)とBachelor degree in Oral Science (BSc Oral Science)という修士と学士の2つの資格を卒業時に与えるようになった⁴⁾。リーズ大学歯学部のように修士を含む2つの資格を授与する大学は英国にはほかにはない。

2. 大学情報サイト Unistats

Unistatsとは英国にあるすべての大学とカレッジに関する公式情報を閲覧し比較できるウェブサイトである⁵⁾。英国高等教育財政会議 (Higher Education Funding Council for England: HEFCE) と大学入試手続きを行う大学・カレッジ入学サービス (Universities and Colleges Admission Service: UCAS) によって運営されている。Unistatsは2007年から公開され、英国内の全大学が参加している。2012年9月よりUnistatsの内容が新しくなり、コースを選択するうえで学生にとって、有益で

あると考えられる情報を集約し、主要情報 (Key Information Set) として31,000以上のコースに関する情報が提供されるようになった。提供される主要情報は大学の公式基本情報、全国学生満足度調査結果および高等教育卒業生進路調査 (The Destination of Leavers from Higher Education Survey) 結果である。

1) 大学の公式基本情報の公開

Unistatsが提供する主要情報は、すべて大学からの公式情報である。具体的には、大学学生数、中退・休学の割合などでこれらの情報は以前から提供されていた。2012年9月以降、授業料、大学が提供あるいは支援する学生宿舍の年間平均費用、民間の学生宿舍の年間平均費用などの金銭的情報、授業形式、成績の評価方法などの情報が新たにUnistatsで提供されるようになった。進路を迷っている学生にとって、Unistatsでは大学個々の情報を閲覧できるだけでなく、大学間の情報を比較検討することが可能で、さまざまな尺度で複数の大学を比較することができ、進学希望者の進路決定を手助けしてくれるツールである。

表2は大学入学前に学生が保有していた資格の分布とUCAS tariffスコアの分布を示している。UCAS tariffスコアとは大学進学希望者の高等学校の成績を数値化したスコアである⁶⁾。表2の「大学入学前に取得した資格」が示すように英国において歯学部入学者はさまざまな資格をもっており、その成績を比較することは難しい。UCAS tariffのスコア換算表を用いて資格のスコア化を行うため、異なった資格をもつ学生の成績を相互に比較し評価することが可能である。UCAS tariffスコアを入学希望者選抜のための評価の指標の一つとして使っている大学もある。また、各コースの難易度がUCAS tariffスコアの分布によって示されるので、進路選択に役立てることができる。

表3は授業の形式や学生の評価方法および大学の継続状況を示している。ほとんどの歯学部でほぼ全員が歯学部での勉強を継続していた。表4は年間授業料、奨学金などの経済支援の有無や下宿費用に関する情報をまとめたものである²⁾。英国の歯学部はすべて公立であるため、年間授業料はいずれの歯学部も9,000ポンド (約1,170,000円)であった。ただし、奨学金の取得有無によって学生の支払う授業料は少なくなる場合もある。出身地によっては授業料の優遇措置を採っている歯学部が2校あった。北アイルランドにあるクイーンズ大学ベルファストは、北アイルランド出身の学生に対しては授業料が3,575ポンド (約465,000円)と通常の約1/3に、スコットランドにあるグラスゴー大学は、スコットランド出身の学生に対しては授業料が1,820ポンド (約236,600円)と通常の約1/5になっていた。大学が提供

表 2 大学入学前に学生が取得した資格と UCAS tariff スコア*1

	大学入学前に取得した資格 (%)								UCAS tariff score (%)													
	学位あるいは 高等教育資格 (博士・修士)	高等教育機 関の資格*2	A レベルの試験ある いはスコットランド高 等教育資格	国際 バカロレア	アクセスコース (高等教育準 備課程) 修了	ファンデーション コース (大学進 学準備コース)	その他	なし	120 未満	120 5 159	160 5 199	200 5 239	240 5 279	280 5 319	320 5 359	360 5 399	400 5 439	440 5 479	480 5 519	520 5 559	560 5 599	600 以上
ロンドン大学 クイーン・メアリー校	4	0	96	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	35	26	18	9	3	4	
クイーンズ大学ベルファスト	5	10	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	5	20	40	10	5	5		
バーミンガム大学	6	0	94	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	13	17	26	13	8	10		
ブリストル大学	8	0	88	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	15	27	21	6	9	12		
カーディフ大学5年制	0	0	100	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	12	25	17	19	7	7	12		
カーディフ大学6年制	3	0	94	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	2	10	27	15	13	15	11	6	
ダンディー大学	3	0	96	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	11	14	21	24	14	10		
グラスゴー大学	7	0	91	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	15	25	16	23	16		
キングズカレッジ5年制	15	1	82	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	6	20	17	28	10	10	9	
キングズカレッジ4年制 (医学部修了者対象)	33	1	64	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	6	20	17	28	10	10	9	
キングズカレッジ4年制 (理系学部修了者対象)	100	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	6	20	17	28	10	10	9	
リーズ大学	3	0	85	0	0	5	7	0	1	1	0	0	1	3	16	15	20	18	12	7	5	
リバプール大学5年制	14	2	78	0	0	3	2	2	0	0	0	0	0	5	30	15	15	15	5	10		
リバプール大学4年制	85	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	30	15	15	15	5	10		
マンチェスター大学5年制	7	0	90	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	19	16	20	19	16	0	8	
マンチェスター大学6年制	10	0	87	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	18	17	20	20	15	0	8	
ニューキャッスル大学	6	2	90	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	12	18	19	17	6	12	16	
シェフィールド大学	11	0	87	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	3	15	18	14	18	14	6	9	

*1 アバディーン大学, セントラルランカシャー大学およびプリモス大学ペニンシュラ医科歯科校はデータが公表されていなかったため, 表には掲載していない。

*2 2年間の Higher National Diploma (職業訓練分野の高等教育コース) などの資格。

表 3 授業形式と学生の評価方法、大学の継続状況について*1

	授業の形式と費やす時間の割合 (%)																		コースの評価 (%)																		継続状況 (%)					
	講義・セミナー						講義以外の自主学習*2						学外施設(病院など)での実習						レポートなどの提出物による評価						筆記テストによる評価						実技テストによる評価						臨床 適正試験 の有無	同じ 大学を 継続	入学した コースを 1年後に 修了	入学時とは 異なる コースを 修了	休学中	中退
	学年						学年						学年						学年						学年																	
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6						
ロンドン大学 クイーン・メアリー校	38	46	38	44	48	62	54	49	34	52	0	0	13	22	0	0	23	13	5	11	90	77	36	28	25	10	0	51	67	64	×	90	0	0	0	10						
クイーンズ大学 ベルファスト	26	29	28	8	4	70	68	44	29	15	4	3	28	63	81	7	3	6	0	0	72	80	80	75	52	21	17	14	25	48	○	100	0	0	0	0						
バーミンガム大学	27	40	34	40	12	73	60	22	20	34	0	0	44	40	54	33	12	0	0	0	61	85	7	90	60	6	4	93	10	40	○	95	0	0	3	3						
ブリストル大学	34	52	37	31	7	65	40	22	29	31	1	8	41	40	62	12	5	7	0	5	87	67	51	68	37	1	28	42	32	58	×	98	0	0	2	0						
カーディフ大学5年制	56	62	46	23	2	40	28	19	16	18	4	10	35	61	80	20	25	20	100	25	57	50	60	0	45	23	25	20	0	30	○	100	0	0	0	0						
カーディフ大学6年制	34	56	62	46	23	2	66	40	28	19	16	18	0	4	10	35	61	80	27	20	25	20	100	25	61	57	50	60	0	45	12	23	25	20	0	30	×	100	0	0	0	0
セントラル ランカシャー大学	52	52	63	26	48	48	37	72	0	0	0	0	0	8	15	17	70	59	55	83	30	33	30	0	×	情報なし																
ダンディー大学	38	48	53	46	24	62	52	47	54	58	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	100	100	100	100	100	0	0	0	0	0	×	99	0	0	0	1						
グラスゴー大学	25	31	39	29	12	68	55	47	40	38	0	0	0	5	41	10	0	0	10	0	60	70	70	50	0	30	30	30	40	100	×	100	0	0	0	0						
キングズカレッジ5年制	28	37	19	13	9	68	55	47	40	38	4	8	34	47	53	0	0	0	0	0	100	100	67	67	40	0	0	33	33	60	×	95	0	0	1	5						
キングズカレッジ4年制 (医学部修了者対象)	40	19	13	9	53	47	40	53	7	34	47	38	0	0	0	0	100	67	67	40	0	33	33	60	×	95	1	0	1	3												
キングズカレッジ4年制 (理系学部修了者対象)	40	19	13	9	53	47	40	53	7	34	47	38	0	0	0	0	100	67	67	40	0	33	33	60	×	100	0	0	0	0												
リーズ大学	22	19	24	19	5	59	53	44	32	32	19	28	32	49	63	30	33	19	17	48	68	57	57	55	21	2	10	24	28	31	×	95	0	0	4	0						
リバプール大学 5年制	35	81	69	69	55	65	19	31	31	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	50	50	50	50	0	50	50	50	50	○	100	0	0	0	0						
リバプール大学 4年制	81	69	69	55	19	31	31	45	0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	○	100	0	0	0	0								
マンチェスター大学 5年制	26	42	54	40	43	74	58	46	35	51	0	0	0	25	6	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	×	100	0	0	0	0						
マンチェスター大学 6年制	28	26	42	54	40	43	72	74	58	46	35	51	0	0	0	0	25	6	50	34	34	34	34	34	34	50	33	33	33	33	×	100	0	0	0	0						
ニューキャッスル大学	30	42	44	50	7	70	58	13	8	52	0	0	43	42	41	15	20	15	20	29	85	30	67	60	43	0	50	18	20	28	×	96	0	0	3	1						
シェフィールド大学	66	50	32	19	3	28	28	23	20	32	6	22	45	61	65	0	15	21	0	12	100	63	23	33	38	0	22	56	67	50	×	94	0	0	5	1						
プリモス大学 ベニンシユラ医科歯科校	56	78	95	96	44	22	5	4	0	0	0	0	17	17	25	25	33	33	17	17	50	50	58	58	×	98	0	0	0	1												

*1アバディーン大学はデータが公表されていなかったため、表には掲載していない。

*2講義以外の自主学習には予習、復習、発展学習、課題などが含まれる。

英国における歯学部進学希望者を対象とした情報提供に関する調査

表4 年間授業料、奨学金および下宿費用について*1

	年間授業料			経済的支援				寄宿舍・下宿費用				
	英ポンド	日本円*2	特記事項	大学の英国奨学金プログラムへの加入	授業料免除制度の有無	資産調査に基づいた支援の有無	資産調査を伴わない支援の有無	大学寄宿舍			民間の下宿	
								年間費用(英ポンド)	年間費用(日本円)*2	ベッド数	年間費用(英ポンド)	年間費用(日本円)*2
ロンドン大学 クイーン・メアリー校	9,000	1,170,000		○	×	○	×	4,700~5,200	611,000~676,000	2,377	4,200~4,600	546,000~598,000
クイーンズ大学 ベルファスト	9,000	1,170,000	北アイルランド出身学生は 3,575ポンド(約465,000円)*2	—	○	○	○	2,700~3,800	351,000~494,000	1,984	2,300~3,400	299,000~442,000
バーミンガム大学	9,000	1,170,000		○	×	○	○	4,300~5,800	559,000~754,000	4,900	3,300~6,000	429,000~780,000
ブリストル大学	9,000	1,170,000		×	○	○	×	4,300~5,800	559,000~754,000	4,383	4,300~5,800	559,000~754,000
カーディフ大学5年制	9,000	1,170,000		—	×	○	×	2,900~3,400	377,000~442,000	5,111	2,900~3,200	377,000~416,000
カーディフ大学6年制	9,000	1,170,000		—	×	○	×	2,900~3,400	377,000~442,000	5,111	2,900~3,200	377,000~416,000
セントラル ランカシャー大学	9,000	1,170,000		○	×	○	○	3,200~4,400	416,000~572,000	5,271	2,100~3,000	273,000~390,000
ダンディー大学	9,000	1,170,000		—	×	○	○	4,300~4,800	559,000~624,000	1,587	2,600~6,900	338,000~897,000
グラスゴー大学	9,000	1,170,000	スコットランド出身学生は 1,820ポンド(約236,600円)*2	—	×	○	○	3,300~4,000	429,000~520,000	3,521	5,100~5,700	662,000~741,000
キングズカレッジ5年制	9,000	1,170,000		○	○	○	○	3,200~9,200	416,000~1,196,000	1,998	4,100~5,300	533,000~689,000
キングズカレッジ4年制 (医学部修了者対象)	9,000	1,170,000		○	—	—	—	3,200~9,200	416,000~1,196,000	1,998	4,100~5,300	533,000~689,000
キングズカレッジ4年制 (理系学部修了者対象)	9,000	1,170,000		○	○	○	○	3,200~9,200	416,000~1,196,000	1,998	4,100~5,300	533,000~689,000
リーズ大学	9,000	1,170,000		○	○	○	○	4,100~5,000	533,000~650,000	7,302	3,300~3,900	429,000~507,000
リバプール大学 5年制	9,000	1,170,000		○	○	○	×	3,500~7,400	450,000~962,000	4,460	2,400~3,200	312,000~416,000
リバプール大学 4年制	9,000	1,170,000		○	○	○	×	3,500~7,400	450,000~962,000	4,460	2,400~3,200	312,000~416,000
マンチェスター大学 5年制	9,000	1,170,000		○	×	○	×	3,300~6,600	429,000~858,000	9,200	1,800~6,200	234,000~806,000
マンチェスター大学 6年制	9,000	1,170,000		○	×	○	×	3,300~6,600	429,000~858,000	9,200	1,800~6,200	234,000~806,000
ニューキャッスル大学	9,000	1,170,000		○	○	○	○	2,900~4,600	377,000~598,000	3,780	2,900~4,400	377,000~572,000
シェフィールド大学	9,000	1,170,000		○	○	○	○	4,600~4,900	598,000~637,000	5,561	3,800~4,400	494,000~572,000
プリモス大学 ベニンシュラ医科歯科校	9,000	1,170,000		○	×	○	○	4,400~4,900	572,000~637,000	2,920	3,100~4,600	403,000~598,000

*1アバディーン大学の情報は Unistats では公開されていなかったため表から除外している。

*21ポンド=130円で計算した。

表 5 卒業6カ月後の就業状況 (2012年)*1

	卒業6カ月後の就業分野 (%)			卒業6カ月後の就業状況 (%)					卒業後6カ月間の給与	
	専門職	非専門職	不明	就職	進学	就業および進学	その他	失業	範囲(英ポンド) (下限～上限)	範囲(日本円)*2 (下限～上限)
ロンドン大学 クイーン・メアリー校	100	0	0	91	2	7	0	0	30,000～30,000	3,900,000～3,900,000
クイーンズ大学ベルファスト	100	0	0	85	0	15	0	0	30,000～31,000	3,900,000～4,030,000
バーミンガム大学	100	0	0	86	0	14	0	0	30,000～30,000	3,900,000～3,900,000
ブリストル大学	100	0	0	100	0	0	0	0	30,000～30,000	3,900,000～3,900,000
カーディフ大学5年制	100	0	0	95	0	5	0	0	30,000～31,000	3,900,000～4,030,000
カーディフ大学6年制	100	0	0							
ダンディー大学	100	0	0	85	0	15	0	0	30,000～31,000	3,900,000～4,030,000
グラスゴー大学	100	0	0	93	0	4	3	0	30,000～33,000	3,900,000～4,290,000
キングズカレッジ5年制	100	0	0	91	0	9	0	0	30,000～31,000	3,900,000～4,030,000
キングズカレッジ4年制 (医学部修了者対象)	100	0	0	86	4	8	2	0	30,000～31,000	3,900,000～4,030,000
キングズカレッジ4年制 (理系学部修了者対象)	100	0	0	95	0	5	0	0	30,000～31,000	3,900,000～4,030,000
リーズ大学	95	0	5	85	0	15	0	0	30,000～30,000	3,900,000～3,900,000
リバプール大学5年制	100	0	0	85	0	13	0	2	30,000～30,000	3,900,000～3,900,000
リバプール大学4年制	100	0	0	80	0	20	0	0	30,000～30,000	3,900,000～3,900,000
マンチェスター大学5年制	100	0	0	95	0	5	0	0	30,000～30,000	3,900,000～3,900,000
マンチェスター大学6年制	100	0	0	95	0	5	0	0	30,000～30,000	3,900,000～3,900,000
ニューキャッスル大学	94	5	2	84	0	16	0	0	30,000～31,000	3,900,000～4,030,000
シェフィールド大学	100	0	0	80	0	20	0	0	30,000～30,000	3,900,000～3,900,000
プリモス大学 ペニンシュラ医科歯科校	100	0	0	80	0	20	0	0	30,000～31,000	3,900,000～4,030,000

*1 アバディーン大学の情報は Unistats では公開されていなかったため表から除外している。セントラルランカシャー大学は新設校でデータが公表されていなかったため、表には掲載していない。

*2 1ポンド=130円で計算した。

する寄宿舎の年間費用とベッド数、民間の下宿費用についても情報が公開されていた。

2) 高等教育卒業生進路調査の結果

表5は高等教育卒業生進路調査(The Destination of Leavers from Higher Education Survey)の結果による2012年の就業状況を示している。高等教育卒業生進路調査とは高等教育統計局(Higher Education Statistics Agency)によって行われる調査で、卒業6カ月後と卒業40カ月後の調査の2回にわたって調査が行われる。卒業6カ月後の調査では就業あるいは進学状況、就職している場合は仕事内容や給与などについての質問項目があり、回答率は平均80%である。40カ月後の調査は6カ月後の調査の回答者に対するフォローアップ調査である

が、公表されているデータはなかった。

表5の結果から、いずれの歯学部においても、卒業6カ月後はほぼ100%の学生が専門職に就いていた。卒業後の進学と就業の関係であるが、約80%以上の歯学部卒業生が進学しないで就職しており、就業と進学の両方を行っている者は大学によって割合が異なるが少数であった。この背景として、英国ではNational Health Service(NHS)の下で歯科治療を行う場合、2年間の卒後研修修了が義務となっていることが関係していると考えられた。歯学部卒業後6カ月間の給与中央値はダンディー大学歯学部以外においてすべて30,000ポンド(約3,900,000円)、ダンディー大学歯学部において31,000ポンド(約4,030,000円)であった。給与の範囲はいず

表 6 全国学生満足度調査の質問項目と歯学部学生の調査結果 (2012年)*1

	回答学生数	全国学生満足度調査の質問項目 (%)																				全体の満足度	学生組合*3	
		授業				評価とフィードバック				アカデミックサポート		組織とコース運営		学習のための設備と教材		学生の能力開発								
		教官はわかりやすく説明してくれた	教官によって教育内容に興味をそそられた	教官は教えることに熱心であった	コースは知的に刺激的であった	評価基準は事前に明示されていた	評価は公平であった	提出した課題に対する詳細なコメントを得られた	提出した課題に対するフィードバックは迅速であった	課題に対するフィードバックによって理解できなかったことが理解できた	勉強に対して十分なアドバイスとサポートがあった	必要ときに教官にコンタクトが取れた	必要ときに良いアドバイスが得られた	カリキュラムは適切であった	コースや教育に関する変更は速やかに連絡があった	図書館の蔵書などの資源およびサービスは十分であった	必要ときにIT情報にアクセスできた	必要ときに特別な装置、施設、部屋を使用した	コースは自分自身に自信を持たせてくれた	コミュニケーションスキルが向上した	初めての課題に直面しても乗り越えられる自信がついた			
歯学部全体*2	994	96	93	93	94	76	79	73	62	65	83	92	85	77	72	76	93	96	89	93	97	94	94	データなし
アバディーン大学*2	記載なし	98	95	94	95	77	83	72	50	59	86	95	83	84	79	90	89	92	89	94	97	99	98	データなし
ロンドン大学クイーン・メアリー校	55	98	98	98	98	91	96	79	77	82	93	98	98	95	89	89	98	100	98	96	100	100	98	69
クイーンズ大学ベルファスト	35	100	100	100	100	76	79	94	82	91	94	97	97	56	62	71	97	91	88	94	94	100	94	82
バーミンガム大学	45	98	98	96	98	85	80	85	76	78	98	96	93	87	89	87	98	96	89	91	98	98	71	98
ブリストル大学	60	98	98	97	97	83	90	84	83	84	93	97	93	91	86	88	84	93	93	98	98	95	100	45
カーディフ大学5年制	55	93	79	80	95	79	66	43	29	30	79	80	72	70	52	70	100	98	89	86	96	82	86	83
カーディフ大学6年制	55	98	89	80	90	86	68	25	25	25	89	84	85	61	36	50	98	96	96	91	96	96	83	93
ダンディー大学	50	90	84	88	98	73	76	49	47	67	92	98	86	78	55	76	96	96	94	92	100	94	98	82
グラスゴー大学	80	99	99	99	99	98	95	75	63	84	95	99	93	95	96	94	100	96	97	98	99	98	100	73
キングズカレッジ5年制	105	98	91	95	97	80	78	79	59	66	83	91	87	89	84	90	91	96	89	93	98	97	97	73
キングズカレッジ4年制 (医学部修了者対象)	135	95	88	92	92	76	76	77	59	63	78	88	81	85	79	85	91	95	88	87	91	89	73	91
キングズカレッジ4年制 (理系学部修了者対象)	25	96	93	93	85	78	85	81	70	63	70	85	73	78	70	81	93	93	85	78	81	74	73	81
リーズ大学	80	98	95	98	98	88	83	73	73	76	94	99	95	80	80	83	99	99	96	93	99	94	96	90
リバプール大学5年制	55	93	87	96	94	78	85	87	76	78	87	89	81	89	76	78	81	93	91	100	98	93	98	55
リバプール大学4年制	25	92	96	100	100	67	79	83	63	75	96	100	87	74	63	71	83	92	73	96	96	100	96	55
マンチェスター大学5年制	60	95	92	92	93	62	69	66	57	56	79	93	84	69	61	77	82	88	73	93	95	92	92	67
マンチェスター大学6年制	60	95	92	92	93	62	69	66	57	56	79	93	84	69	61	77	82	88	73	93	95	92	92	67
ニューキャッスル大学	65	96	93	94	96	84	75	48	28	40	85	96	88	88	75	87	93	82	91	94	94	93	97	76
シェフィールド大学	65	98	91	95	95	63	74	66	62	68	92	95	85	80	81	83	88	98	90	97	98	94	97	95
プリモス大学 ベニンシュラ医科歯科校	40	90	90	92	97	59	62	59	72	64	77	85	81	54	69	51	79	92	87	85	87	82	82	72

*1 回答は「とてもそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」の6分類で、表は「とてもそう思う」あるいは「そう思う」と回答した歯学部学生の割合を示している。セントラルランカシャー大学はデータが公表されていないため、表には掲載していない。

*2 2012年の結果が公表されていないため、2011年の調査結果を示した。

*3 2012年の調査から追加された質問項目である。

れの大学もほぼ同様の値を示していた。

3) 全国学生満足度調査の結果

全国学生満足度調査 (National Student Survey) とは英国の大学の最終学年のすべての学生を対象に、大学教育についての満足度を共通の質問票を用いて調査するアンケート調査のことである。2005年に第1回目の調査が行われ、2012年で8回目になる。調査対象となるのは英国内の公立高等教育機関の最終学年の全学生である。調査は英国高等教育基金からの委託によって民間の市場調査機関が実施している。調査結果は Unistats のホームページで公開されるが、データの信頼性維持のため、回答学生数が23名に満たない場合、また回答者の割合が50%以下の場合はその学部の調査結果は公表されない。

調査に参加する学生はオンラインによる回答、オンライン以外の電話でのインタビューや郵送でのアンケート調査のいずれかを選択できる。本調査を行う目的は、大学進学希望者に対して進路選択のための情報提供を行うこと、国民に対する教育の質についての説明責任、教育機関の教育の質向上のための学生からの意見収集である。調査結果は大学側へもフィードバックされる。全国学生満足度調査の結果が良かった大学は自校のホームページにそのことを記載し、大学PRにも使っている。

表6に全国学生満足度調査の質問項目と2012年の歯学部学生の調査結果を示した。計23項目あり、授業、評価とフィードバック、アカデミックサポート、組織とコース運営、学習のための設備と教材、学生の能力開発、全体の満足度、学生組合の8分野に分けられる。学生組合についての質問項目は、『高等教育白書』の決定に従って2012年の調査から新たに追加された。質問に対する回答は「とてもそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」の6段階で、選択式の質問項目以外に大学生活に関して自由な意見を書くこともできる。記載された意見は匿名で大学側に報告される。

2011年度において歯学部で全国学生満足度調査に参加したのは、16校中14校で、計994名の学生が回答し、回答率は82%であった。2012年の調査には15校の歯学部が参加したが回答率については公開されていなかった。表6の結果から、全体としての満足度については、大半の歯学部で90%近くの学生が満足していると回答していた。授業、アカデミックサポート、学習のための設備と教材、学生の能力開発に関する質問項目については、どの歯学部も約80%以上の学生が満足していると評価していた。一方、評価とフィードバックについては、大学間で満足度がかなり異なっていた。評価が高い大学がほとんどであるが、カーディフ大学歯学部、ニューキャッスル大学歯学部の結果はかなり厳しいものであっ

た。「提出した課題に対するフィードバックは迅速であった」という質問項目に対し、それぞれ43%、48%の学生が「とてもそう思う」あるいは「そう思う」と回答した。「提出した課題に対する詳細なコメントを得られた」の質問項目に対して、それぞれ29%、28%の学生が「とてもそう思う」あるいは「そう思う」と回答した。「課題に対するフィードバックによって理解できなかったことが理解できた」という質問項目に対して、「とてもそう思う」あるいは「そう思う」と回答した学生はそれぞれ30%、40%であった。また組織とコース運営についてはほとんどの大学において学生による評価は高かったが、プリモス大学ペニンシュラ医科歯科校の結果は低く、「カリキュラムは適切であった」「コースは適切に構成されスムーズに運営されていた」という質問項目に対し、「とてもそう思う」あるいは「そう思う」と回答した学生はそれぞれ54%、51%という結果であった。

考 察

英国では大学進学希望者が進路選択に必要な情報を容易に入手できるようにウェブサイトが整備されている。大学が作成した個々のホームページでの情報だけでなく、すべての大学の情報を集約して Unistats と呼ばれるウェブサイトで一元的に提供している。Unistats では複数の大学を同じ基準で比較できるように情報が整理されている。学生の視点から評価した全国学生満足度調査の結果も公開されており、大学間での比較も可能であるため、進路決定に迷っている高校生にとっては有益である。大学を選定するにあたって、奨学金制度などの経済的な支援制度の有無や寄宿舎などにかかる費用などの金銭的な事項は重要であり、これらの情報を大学公式情報として一元的に提供することは、進学予定者自身のみならず保護者にとっても参考になると思われる。

Unistats ではすべての学部を取りまとめて管理しているため、提供される情報も学部共通の形式である。共通の形式を採用することで同じ基準で大学間の比較が可能であるが、逆に学部特有の情報を提供できない、あるいは学部の性質上あまり意味のない情報の提示も考えられる。たとえば、卒業6カ月後の主な職業に関する情報を Unistats は提供しているが、歯学部を卒業した学生は、研修医としてほとんどの学生が医療関係の仕事に従事する。したがってこの情報自体、歯学部ではあまり意味をもたない。また、歯科医師養成教育機関においては病院実習などの臨床実習はカリキュラムのなかで重要な位置づけとなっている。しかし、Unistats では臨床実習についての情報は提供されていない。

このような Unistats の欠点を補う意味で、歯科医師に

関するキャリアガイドブックが2011年に発行された。ガイドブックにはすべての歯学部情報を網羅して提供し、さらに歯学部教育についての細かなデータ、学生生活などが詳細に情報提供されているので、歯学部進学を考える学生には、大学選択に有用である。

英国において歯学部コースでは高校時代の成績が優秀であることが募集条件にあり、歯学部入学は狭き門である。大半の学生は歯学部への入学を第1志望としており⁷⁾、歯学部の情報入手に積極的であり⁸⁾、医学部ではなく歯学部の道を選択する明確な理由をもっている。他学部と異なり、1年生から2年生への進級時に、歯学部を辞めていく学生が少ないのはこのような背景が影響していると思われる。また、生化学系の理系学部修了者のための歯学部コースを高卒者用のコースと併設する大学がいくつかあり、なかには大学修了者だけを受け入れている歯学部もある。日本の国立および私立の歯学部においても学士入学を受け入れている大学がいくつかあるが、いずれも若干名の募集枠である。英国のように大学を修了したうえで歯学部に入学者を多く受け入れているのは、学生のもつ幅広い知識と経験を活かし、医療の世界で貢献してほしいと期待しているからであると考えられる。大学を修了して歯学部に入学者はほかの学生に比較して積極的に、NHSといった公的歯科保健分野で貢献していきたいと考えている者が多いという報告もある⁹⁾。

また、英国では医学部修了者を受け入れるコースも設置されている。日本では歯科医師の免許のある者が、医学部に入学して医師免許を取得することはあっても、逆はほとんどみられない。英国における医学部修了者向けのコースは幅広い医学の知識に加えて、歯科の知識を身に付けた医療者を育成することが可能で、歯学と医学のかけはしとして医歯学連携強化に貢献し、歯学分野のさらなる発展が期待できると思われる。

結 論

大学が優秀な学生をリクルートしたいと希望するのは、英国も日本も同じである。英国において第三者機関である Unistats を介して大学情報を発信することで、情報の透明性と公平性を図っている点、全大学の学生を対象にした大学の教育内容や設備などの満足度を毎年評価し、学生による大学評価として公開すると同時に大学側へフィードバックも行っている点、全国の歯学部が協力して歯学部進学希望者向けのキャリアガイドブックを執筆している点などを、日本にはない方法で学生に向けて

情報発信をしている。このような英国における情報発信方法を参照し、応用していくことは、今後、日本の大学にとっても非常に有益であると考えられた。

本研究は、平成23年度厚生労働省科学研究費補助金(H23-循環器等(歯)一般-001))により行われた。

文 献

- 1) Department for Business Innovation and Skills. HIGHER EDUCATION Students at the Heart of the System : Equality Impact Assessment ; June 2011. <http://www.bis.gov.uk/assets/biscore/higher-education/docs/h/11-1051-higher-education-students-at-heart-equality-impact-assessment> (Accessed 2012.12.11)
- 2) The first five years—third edition (interim) 2008, General Dental Council, December 2008. <http://www.gdc-uk.org/Dentalprofessionals/Education/Documents/TheFirstFiveYears.pdf> (Accessed 2012.12.11)
- 3) Gallagher JE, Wilson NH. CU@DENTAL SKL—A Guide to UK Dental Schools and Dentistry as a Career. 1st ed. London : Stephen Hancocks Limited ; 2011. p.1-156.
- 4) リーズ大学ホームページ. <http://www.leeds.ac.uk/> (Accessed 2012.12.11)
- 5) Unistats ホームページ. <http://unistats.direct.gov.uk/> (Accessed 2013.2.2)
- 6) UCAS ホームページ. http://www.ucas.com/students/ucas_tariff/ (Accessed 2013.2.2)
- 7) Gallagher JE, Niven V, Donaldson N, Wilson NH. Widening access? Characteristics of applicants to medical and dental schools, compared with UCAS. *Br Dent J* 2009 ; 207 : 433-45.
- 8) Gallagher JE, Patel R, Donaldson N, Wilson NH. The emerging dental workforce : why dentistry? A quantitative study of final year dental students' views on their professional career. *BMC Oral Health* 2007 ; 15 ; 7 : 7. doi : 10.1186/1472-6831-7-7.
- 9) Newton P, Cabot L, Wilson NH, Gallagher JE. The graduate entry generation : a qualitative study exploring the factors influencing the career expectations and aspirations of a graduating cohort of graduate entry dental students in one London institution. *BMC Oral Health* 2011 ; 24 ; 11 : 25. doi : 10.1186/1472-6831-11-25.

著者への連絡先：竹原祥子

〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 健康推進歯学分野

TEL : 03-5803-5477, FAX : 03-5803-0194

E-mail : takehara.ohp@tmd.ac.jp

A Study on How Information Is Provided to Prospective Students of Dental Schools in the UK

TAKEHARA Sachiko¹⁾, MORIO Ikuko²⁾ and KAWAGUCHI Yoko¹⁾

¹⁾ Department of Oral Health Promotion, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University

²⁾ Department of Dental Education Development, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University

Abstract In the UK, all dental schools are responsible for producing graduates who meet the requirements of the General Dental Council (GDC). In order to achieve all the requirements, it is important for dental schools to recruit competent students as well as devise curricula. For this purpose, dental schools in the UK provide information about the admissions policy, teaching style, and school life. The way the information is provided in the UK is different from that in Japan. This study investigated how UK dental schools provide the information to attract prospective applicants.

Unistats is an official website which lets people search, review and compare official information about universities in the UK. It includes results from the National Student Survey, where almost all final-year students in the UK give their views about the quality of the education they have experienced at the institutions they are attending. In addition, a guide book to UK dental schools and dentistry as a career was published with the contribution of personnel from all dental schools in the UK. This guide book contains up-to-date information on all UK dental schools including the admissions policy and facilities at each school.

Recruiting students who are competent and dedicated to be dentists is important for dentistry not only in the UK but also in Japan. In the UK, there is competition to be admitted to dental schools and most students enter dental schools as their preferred subject choice. Therefore, there are only a few students who decide to change course, for example by moving to medical schools. Thus, applying the UK system of providing information could help improve the way of recruiting potential dentists in Japan.

Key words dental schools in UK, Unistats, National Student Survey, career guide book



川口陽子

東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野

歯科医療従事者の種類と役割、歯科保健状況、歯科医療制度等は国により異なっています。しかし、歯科疾患の原因、治療、予防法は基本的に同じなので、他国の予防対策を知ることが、わが国においても予防歯科を推進するうえで参考になると思います。これから6回にわたり、世界の予防歯科事情を紹介いたします。

File1 イギリス

エビデンスに基づいた予防ツールキット

イギリスでは、ナショナルヘルスサービス (National Health Service) に登録した歯科医院には、「エビデンスに基づいた予防ツールキット」の本が配布されます。その中には最新の研究に基づいたエビデンスのある予防メッセージが具体的に提示されており、歯科医師や歯科衛生士はそれを参考に保健指導を行っています。

この本には、ブラッシング、フッ化物の応用、食生活、非含糖薬剤、歯周組織の健康、禁煙指導、飲酒対策、酸蝕症の項目ごとに、セルフケアとプロフェッショナルケアという2つの視点からの予防メッセージが、エビデンスの強さ (I~V) とともに示されています。たとえば、日本にはない高フッ化物濃度の歯磨剤の使用や、ブラッシング後の含嗽禁止などが、う蝕予防のために推奨されています (表1)。また、口腔がんの予防として、禁煙指導とともに飲酒に関

する助言を行うことが勧められています。

予防を定着させるには、歯科医師や歯科衛生士が同じ内容のメッセージを繰り返し発信していくことが大切です。専門家によって、見解の異なるメッセージが提供されると、患者さんや住民は混乱してしまいます。EBM発祥の地、イギリスでは、歯科医療の中心が治療から予防へと転換する中で、このように患者さんへの助言にもエビデンスを取り入れているのです。

わが国においてEBMという言葉は普及しましたが、実際に歯科疾患の予防に関するエビデンスを検討した報告はほとんどありません。今後、これまでの学術論文や書籍をもとにエビデンスをまとめ、臨床や地域歯科保健活動に応用できる歯科疾患の予防ガイドラインを作成し、普及していくことが必要だと思います。

表1 予防メッセージ (7歳以上の小児と青少年のう蝕予防の場合)

セルフケア

予防メッセージ	EB ^{※1}
1日に2回ブラッシングする	I
フッ化物配合歯磨剤を使用する (1,350ppm以上)	I
砂糖含有飲食物の摂取回数と摂取量を減らす。砂糖含有飲食物は食事の際に摂取するようにし、1日に4回以上摂取してはいけない	III
ブラッシング後に歯磨剤を吐き出し、うがいは行わない	IV
就寝前とそれ以外に1回ブラッシングする	V

特に注意が必要な人^{※2}の場合、以下を追加

予防メッセージ	EB
ブラッシングとは別の時間に、フッ化物洗口を毎日行う (0.05%NaF)	I

プロフェッショナルケア

予防メッセージ	EB
年2回フッ化物歯面塗布を行う (2.2%F)	I

特に注意が必要な人^{※2}の場合、以下を追加

予防メッセージ	EB
永久臼歯にレジジンシーラントを行う	I
年3~4回フッ化物歯面塗布を行う (2.2%F)	I
活動性う蝕のある8歳以上には、毎日フッ化物洗口をさせる	I
活動性う蝕のある10歳以上には2,800ppmのフッ化物配合歯磨剤を処方する	I
活動性う蝕のある16歳以上には5,000ppmの歯磨剤を処方する	I
食生活調査を行い、好ましい食習慣になるように支援する	III

※1: EB = エビデンスの強さ (I がもっともエビデンスが強い)

※2: 特に注意が必要な人: う蝕が進行しやすい人、矯正治療中の人、特別なケアが必要な人